

■ 年間テーマ：「虫のしらせ」（仮）

何か科学的で明確な根拠がある訳でもなく悪い予感がする時に使う「虫のしらせ」を年間テーマとする。テーマとしては悪い予感という意味としてではなく、目には見えない兆しや言葉にならない気配などの「しらせ」、そして「虫がいい」「腹の虫が治まらない」など日本で古くから「虫」という言葉で表されてきた、人の潜在意識や感情などを捉え、表現へと昇華するアーティストを招聘する。

また未定ではあるが、今年度と同様の文化庁への助成金申請を見越し、海外 AIR 団体からの推薦枠を AIR 事業にそれぞれ盛り込む。

■ 展覧会開催事業

『石田尚志展』（仮）

- 期間 4月下旬～6月中旬
- 展覧会場 ギャラリーA
- 候補アーティスト

石田尚志

※詳細については、別添資料「要回収 1 (1P) : 展覧会開催事業「石田尚志展（仮）」招聘アーティスト候補者リスト」参照

- 内容 線をコマずつ描いては撮影する手法でアニメーション映像を制作する石田尚志の個展を開催する。石田の映像には撮影場所の光と影の動きも同時に捉えられており目に見えない時間が可視化されていること、更に、作品で描かれる抽象的な線や形は、鑑賞者の意識の中から様々な物や現象への見立てを呼び起こすことなどから、年間テーマに即した展覧会の開催が可能である。石田の作品は線描画と映像を基本としながらも、空間を生かした映像投影などを得意とし、ACAC の半弧形の特異なギャラリー空間を生かしたインスタレーション作品を展示する。

○期待される効果

石田尚志は映像作品を壁面に投影するだけではなく、空間を光が横断するような大胆な映像投影も行っており、作品空間の中に入り込むような壮大なインスタレーションが期待される。幅広い年齢層が楽しめる体験型に近い鑑賞体験をもたらすことをアピールし、春の行楽に合わせ広く来館者を呼び込む。また、石田は都心部の大型美術館や芸術祭での展示経験も数多く日本を代表する中堅アーティストとして知名度があり、東北ではこれまで展示の機会が無かった国内有数の作品を紹介する。

■ 地域文化芸術資源活用事業

『ヴィジョン・オブ・アオモリ vol.17』（仮）

- 期間 4月下旬～6月中旬
- 展覧会場 ギャラリーB

○候補アーティスト

塚本悦雄

※詳細については、別添資料「要回収 1 (2P) : ヴィジョン・オブ・アオモリ招聘アーティスト候補者リスト」参照

○内容

青森在住のアーティストを紹介する展覧会を開催する。年間テーマに即し、木や石など塊としての存在感が強い素材を用いて動物や人などの具象彫刻を展示室に配置することで、室内に生き物の気配を漂わせるような展示を行う塚本悦雄を招聘する。

○期待される効果

塚本悦雄は弘前大学教育学部美術教育講座で教授を務める傍ら、弘前を中心に作品発表も精力的に行っていることから、地元のファンも多くいることが考えられ、幅広い層の来館が見込まれる。また、塚本は教員として勤務しているため、関連イベントとして多様な市民交流事業の展開が期待される。

■アーティスト・イン・レジデンス事業 (指名型)

○期間 7月下旬～9月上旬

○候補アーティスト

三原聡一郎、ジャンフランコ・フォスキーノ

※詳細については、別添資料「要回収 1 (3P) : アーティスト・イン・レジデンス事業 (指名型) 招聘アーティスト候補者リスト」参照

○内容

日本人アーティスト 1 名と海外アーティスト 1 名、さらに文化庁助成金を活用して海外 AIR 実施団体から推薦を受けたアーティスト 1 名の合計 3 名による展覧会を開催する。年間テーマに即し、生物や現象の気配や人の微細な意識に着目して作品を制作するアーティストを招聘する。会期中は、ワークショップ等の交流プログラムを開催するほか、アーティストと学生及び市民の交流の場を積極的に設けていく。

○期待される効果

日本人アーティスト三原聡一郎は土や微生物、虹などの物質や現象を基に作品を制作するため、ACAC の環境を活かした展覧会が期待でき、ワークショップ経験が多数あり交流プログラムを多様に展開できる。海外アーティストのジャンフランコ・フォスキーノはヴェネチア・ビエンナーレの参加経験がある世界的に注目されるアーティストであるため、市内のみならず県外の美術愛好家の興味を集めることが期待される。

■アーティスト・イン・レジデンス事業 (公募型)

○期間 10月下旬～12月中旬

○内容

年間テーマのもと公募枠の 4 名のアーティスト (国内 2 名、国外 2 名) を招聘すると共に、文化庁助成金を活用して海外からキュレーター 1 名を招聘する。

○期待される効果

秋 AIR のアーティストは期間一杯の滞在制作を行うため、滞在制作中はワークショップ等の交流プログラムの開催のみならず、アーティストと学生・市民の交流の場が設けやすく、協働の可能性が高まる。

秋 AIR を公募し、外部審査員を交えての審査会を開催することにより、本事業をより広く発信することができ、またより多くのアーティストに対しプログラムの門戸を開くことができる。また、海外キュレーターは市民交流事業として母国の芸術についてのレクチャーと機関誌への寄稿、帰国後に ACAC の活動を広めることを条件として招聘することで、学生・市民との交流と海外での本学の PR が行われることが期待される。

○公募スケジュール

- 4月上旬 公募開始
- 5月下旬 公募締切り
- 6月上旬 審査会
- 6月中旬 教育審議会にて内定者審議・承認
- 7月上旬 候補者公表

○アーティスト選考審査

アーティストの選考審査については、ACAC 学芸員 3 名の他、より公正な選考を目指すとともに本事業を広く発信するためにも国内外のアートおよびアーティストの現状に造詣が深く、最新の調査を常に行っている専門家である外部審査員を入れ実施する。

○外部審査員候補者（以下の順位で 2 名に依頼）

1. 荒木夏実（東京藝術大学准教授）
2. 畠中実（NTT インター・コミュニケーションセンター[ICC]主任学芸員）
3. 木村絵里子（横浜美術館主任学芸員）
4. 中井 康之（国立国際美術館学芸課長、2017 年度審査員）
5. 蔵屋 美香（国立近代美術館美術課長、2017 年度審査員）

※詳細については、別添資料「要回収 1（4P）：アーティスト・イン・レジデンス事業（公募型）外部審査員候補者リスト」参照

■市民交流事業

○期間 随時

○内容 版画、木工などの市民を対象としたワークショップやレクチャーを実施し、学生や市民への創作活動や学びの機会を設ける。

①ものづくり講座

例年人気が高い版画講座をはじめ実践的な講座を実施。

②芸術関連イベントへの協力

市、市民、任意団体等が行う芸術関連イベントへの人的派遣などの協力。

③地元作家によるワークショップ

地元作家を講師に迎え、ワークショップやレクチャーを実施。

■生涯学習事業

○期間 随時

○内容 学校及び市民団体等と連携して創作体験などを展開し、生涯学習の場を提供する。

- ①小学校に対する創作体験を提供する。
- ②中学校、高等学校に対する出張授業や職場体験を提供する。
- ③市民団体等に対する創作体験を提供する。

■広報 PR 事業

- 期間 随時
- 内容
 - ①公式ウェブサイト、SNS を利用した展覧会開催、イベント告知、施設利用などの情報発信。
 - ②『広報あおもり』へのイベント告知の掲載。
 - ③展覧会開催に伴うテレビ CM の放送、チラシ・ポスターの作成、配布。
 - ④施設 PR リーフレットの配布。
 - ⑤記録誌の作成・配布。
 - ⑥本学学生への PR として、学内の ACAC PR スペースに展覧会の案内などを告知する。